

# 秋季 県高校野球

## 第2日

秋季県高校野球選手権は第2日の17日、はるか夢、県営、黒石市営の3球場で2回戦計8試合を行い、ベスト8が出そろった。初戦をコールド勝ちして勢いに乗る弘前東は、夏の甲子園大会に出場した八学光星に7-6で競り勝ち、準優勝した2019年以來の8強入り。青森北は終盤に6点差をひっくり返し、大湊に逆転勝利を飾った。夏の県大会準優勝の八工大一は五所川原、同3位の青森山田は七戸・六ヶ所・野辺地・五所商・松風塾・浪岡の6校連合に、それぞれコールド勝ち。地区予選で弘前学院聖愛を破った弘前は、八戸北を7-4で振り切った。東奥義塾は青森南、青森商は八工大二、野辺地西は大間を下した。大会第3日の準々決勝は19日に行う予定だったが、台風の影響で全4試合が21日に順延となった。（本紙取材班）

# 光星まさかの初戦敗退

【評】弘前東は2点を追う四回、津川、埴見の連続適時打で同点に追い

ついた。再び3点をリードされた八回、敵失と連打から代打佐々木の優の適時打、福士の2点差で競り勝った。

新チームとしては痛いスタートとなった八学光星。先制点こそ奪ったものの、終盤で相手にビッグイニングを与えたことが響いた。チームは相手より安打、長打ともに上回り、要所では犠打、犠飛も確実に決めていた。敗因について仲井監督は「経験



初戦で敗戦となりゲーム後、肩を落としてスタンドの客席に向かう八学光星ナイン

不足など相手を上回る13安打を放ったが、好機を生かせない場面が多く、2番手で登板した主戦員垣が終盤、相手打線にまいった。

## 新戦力「経験不足」 光星

不足」と一言で総括し、肩を落とした。弘前東は今夏の大会を経験したメンバーが多かったが、八学光星は今夏、甲子園の地を踏むなどし

たメンバーは3人のみ。その1人の主将中澤恒（2年）は「相手の先発が想定と違い、術中にはまっていた。もっと臨機応変な野球ができなければ」と反省。取り組むべき課題を見据え、巻き返しを誓った。（正井隼子）